



## 鳥取市教育センターだより

第11号 平成28年3月15日発行

〒680-0053

鳥取市寺町150番地

TEL 0857-36-6060

FAX 0857-26-3878

E-mail

[kyo-center@city.tottori.lg.jp](mailto:kyo-center@city.tottori.lg.jp)

### 「ありがとうございました」

「光陰矢のごとし」と申しますが、早いもので、今年度も残りわずかとなりました。日に日に春の訪れを感じておりますが、1日1日が足早に過ぎていくことと思います。本センターにおきましても、今年度の研修事業が終了し、様々な学校支援の事業も終了しつつあります。

10日には、適応指導教室「すなはま教室」で、今年度の「まとめの会」を実施しました。実質的には、中学校3年生通級生の『すなはま教室の卒業式』になります。

まとめの会では、1年間を振り返るとともに、それぞれの通級生が今年度自分が頑張ったことやできるようになったことなどを振り返りました。また、入級当初はほとんど見ることでできなかった通級生の笑顔もたくさん見ることができました。やはり、子どもたちの笑顔は何物にも代えられないものです。

一人一人の入級の時期は違いますが、それぞれの通級生が、「学校に復帰したい」「今の自分のここを頑張りたい」などと、それぞれの思いを持ちながら通級し、悩みながらも活動の中で自分を見つめ、小さな挑戦を繰り返し、自信をつけてきました。学校復帰や学校へのチャレンジ登校につなげた通級生もいます。多くの通級生が入級当初に比べて自分の進歩を感じ、次の目標に向かってスタートを切ろうとしています。

もちろん、学校復帰の一番の鍵は「学校の支援」であることに変わりはありません。3月も残り少ないですが、新学年へのスムーズな適応を目指して、各学校との連携をさらに強めていきたいと思っております。

**「教室は生徒を教えながら、教師である私も生徒に教えられながら、生徒が進むとともに、私もその日、何らかの意味で教師として成長する、そういう場所でなければならないと思います。」**

これは、大村はま先生の『教えながら、教えられながら』の一節です。この言葉にも込められている「教育への思い」を抱きながら、私たち教育センターは学校とともに歩み、『子どもを元気に 先生を元気に 学校を元気に』のスローガン通り、学校とともに成長していきたいと考えております。

今後も各学校とともに鳥取市の教育をさらに発展させていけるよう、努めてまいりたいと思っております。

この1年間、本センターの事業にご理解とご協力をいただきましたことに感謝申し上げますとともに、来年度もご理解ご協力をよろしくお願いたします。

所長 松田 晃一



すなはま教室通級生折り紙作品  
因幡の白うさぎ「四季」

## 【ひらがな音読支援の結果】

平成27年度「ひらがな音読支援」結果概要		H28. 2. 17段階		
回数	実施者数	改善者数(改善率)	要支援者数	支援率
1回目(8月下旬) 直音連続読み	1,588人		146人	9.19%
2回目(11月上旬) 直音連続読み 単音連続読み	1,583人	改善者:90人 61.64%	138人 継続支援者:56人 新規支援者:82人	8.72%
3回目(1月中旬) 単音連続読み 単文音読	1,585人	改善者:96人 69.57%	64人 継続支援者(2・3回):8人 (1・2・3回):34人 再支援者(1・3回):8人 新規支援者:14人	4.04%
3回目(再確認) 単音連続読み 単文音読			人 継続支援者:人 再支援者:人 最終支援者:人	%

上の表は、2月段階での平成27年度ひらがな音読支援の結果です。2月下旬に第3回音読確認（検査）を終え、基準値に達しなかった児童へ、現在タブレット支援を行っているところです。支援終了後、再確認を行い最終結果が出ます。

平成27年度も多くの児童のひらがな読みを改善することができ、市全体で大きな成果が得られました。しかし、平成26年度の結果と比較してみますと、27年度は改善率が少々低く、支援率もやや高くなっています。平成28年度も国の事業として市全体で実施します。学習の基本となるひらがな読みを習得させて2年生に進級できるよう、実施体制を工夫した取組を引き続きお願いします。

## 就学移行支援研修会

市教育委員会、児童家庭課、こども発達家庭支援センターの三課が連携し、2月17日（金）に開催しました。幼稚園・保育園、小中学校、関係機関から約100名の参加がありました。

グループ協議では、子どもと保護者が安心して就学に臨むために、各機関が早期から保護者と話し合い、子どもの困り感や支援方法を共通理解していくことが重要であることを確認しました。



【講演】鳥取大学 高橋千枝 先生  
「就学移行支援のあり方  
～子どもの育ちをつなぐために～」



### 【事例報告】

美和保育園 福田敦子 園長  
美和小学校 伊藤紀子 教諭  
こども発達家庭支援センター  
小坂祥子 発達支援員

## 学校を元気に ～OJTの仕組みづくり～

先月お知らせしたとおり、文部科学省では、同僚の教員とともに支え合いながらOJTを通じて日常的に学び合う校内研修の充実に重点をおき、法定研修（初任者研修、10年経験者研修）について、実施時期や校外研修の削減等、制度や運用の見直しが進められています。

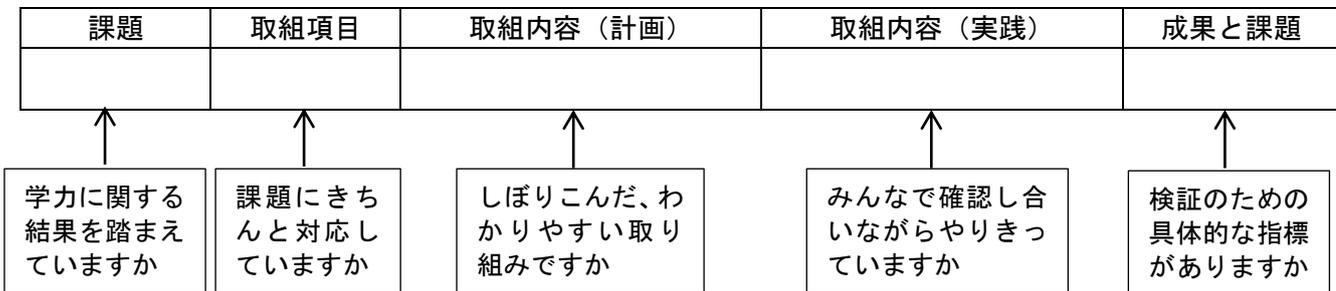
複数の先輩教員が複数の初任者や経験の浅い教員と継続的、定期的に交流し、信頼関係を築きながら、日常の活動を支援し、精神的、人間的な成長を支援することにより相互の人材育成を図る、「メンターチーム」と呼ばれる校内新人育成システムが、初任者の育成だけでなく、校内組織の活性化にも有効であることが指摘されています。（H24 中央教育審議会答申）

各学校でも、教職員集団の中で、だれがだれをどうサポートするのか、ペアやチームを考えていくことが大切です。教育センターでも、来年度以降、OJTに関する支援を考えていく予定です。

## 先生を元気に ～効果的なPDCAサイクルを～

各学校で、来年度の取り組みの検討が行われていることと思います。『実態把握－計画－実施－評価－改善』の流れをしっかりと意識し、取り組みを確実に成果につなげたいものです。

学力向上については、「平成27年度全国学力・学習状況調査結果を活用した学力向上取り組みシート」（2月5日提出）を次の視点で振り返り、来年度に生かしていただくようお願いします。



## 子どもを元気に ～きなんせ！English World～

小学4・5年生25名が、ALT等15名と2月の行事にちなんだ活動を楽しみました。グループ担当の先生方と一緒に活動することで交流が深まり、心に残る English World となりました。



笑顔いっぱい活動する様子がTVで放映されました。



### 《参加者の感想》

- ・英語を使ってゲームができて楽しかった。また参加したい。
- ・先生方がとても明るくやさしく教えてくださいました。
- ・最初は緊張したけど、慣れてしゃべれるようになった。これからは積極的に話をしたい。